

シリーズ 「私たちの思い」



西田 小海 (にしだ こうみ)

柏崎刈羽原子力発電所
原子力安全センター 放射線安全部化学管理グループ
平成21年入社
柏崎市出身

目で見ることでできない放射線。 客観的な視点で、分析を重ねていく。

原子炉建屋には窓がありません。建屋内の放射線管理区域では換気のため外気を取り入れています。窓で換気したりはせず、換気の出口は「排気筒」だけです。私は、この排気筒に設置してある放射線測定装置で、建屋から外に出る空気に含まれる放射性物質の種類や量などを監視・分析する業務を担当しています。

私が東京電力への入社を志望したきっかけのひとつは、高校2年生の時、平成19年に発生した中越沖地震です。余震と停電の続くなかで不安な時間を過ごし、3日後、ついに電気がついた時の感動は今でも忘れられません。

入社してからは、原子力発電や放射線のこと、機器のしくみや使い方など、初めて知ることばかり。特に、取扱説明書は「わかる前提」で作られているものが多く、上司や協力企業の方を質問攻めにしながら一生懸命勉強しました。そんな時、先輩に「自分でもわかるものを作ってみたら？」と言われ、一挙一動を写真に撮って、解説を付けた手順書を作りました。今では後輩もそれを参考にしてくれています。

「わかりやすい」と言ってもらえたことは、大きな自信につながりました。

福島第一の事故以降、家族や友達から、発電所や放射線について聞かれることが増えました。それは、理解してくれようとしている、とてもありがたいこと。その気持ちに応えるためにも、もっと勉強して自分の言葉で伝えたいと思います。

日々の業務では、客観的な視点で監視・分析することを心がけています。例えば、測定結果に数値の変動があり、「なにかおかしい」と感じたら、まずは一度しっかりと立ち止まって、機器の故障、トラブルなど、考えうるあらゆる可能性を確認するようにしています。放射線は目で見ることはできません。だからこそ、客観的な視点で分析した結果によって、少しでも信頼してもらえたらと思っています。



平成28年9月撮影

昨日より今日、今日より明日。私たちは、より高い安全レベルを目指し挑戦を続けます。

シリーズ「私たちの思い」は、ホームページでもご覧いただけます。

TEPCO 新潟本社  <http://www.tepcoco.jp/niigata/index-j.html>



東京電力ホールディングス 新潟本社

025-283-7461

9:00~17:00 (土日・祝日・年末年始除く)

TEPCO